

科目コード	23141	授業科目	医療と倫理 (Medical Ethics)			担当教員	○大城信哉(非常勤) 金高望(非常勤)			
開講年次	4年次 後期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	講義			
選択必修	必修	時間数	30時間							
履修条件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要	人の誕生から死までの間に起こりうる様々な出来事について、医療現場で直面する倫理的問題および法的問題に気づき、生命の尊厳を認識した望ましい行動が取れるための倫理的基盤について学習する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 義務の思想から功利主義、さらに徳倫理学にいたる現代の倫理思想の要点を理解する。</li> <li>2. 生命倫理学の諸問題を適切に理解し、説明できるようになる。</li> <li>3. 人間に対する理解を深め、自分の考えを語れるようになる。</li> <li>4. 主要な医療関係法規の制定趣旨を把握し、看護師の職務を法的な側面から理解できる。</li> <li>5. 医療事故における法的責任とその解決の仕組みを理解できる。</li> </ol>									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	8回目までのイントロダクション：なぜ倫理学を学ぶのか					予習は不要、しかし復習は必ずするように (8回目まで)	大城	講義		
第2回	義務論、リベラリズム、功利主義、共同体主義と徳倫理学						〃	〃		
第3回	医療の臨床倫理と生命倫理						〃	〃		
第4回	インフォームド・コンセントとパターナリズム						〃	〃		
第5回	医療倫理と生命倫理						〃	〃		
第6回	脳死と臓器移植						〃	〃		
第7回	QOLと人為的な死						〃	〃		
第8回	ケアとホスピス						〃	〃		
第9回	人間理解の諸相と看護						〃	〃		
第10回	法とは何かー法の体系と医事法学の扱う分野ー 医事法規～保健師助産師看護師法・医師法・医療法等 (医師看護師等の資格と職務)						〃	金高	〃	
第11回	同上						〃	〃		
第12回	医療事故と法的責任						〃	〃		
第13回	看護事故と法的責任						〃	〃		
第14回	紛争予防、様々な医療関連紛争解決システム						〃	〃		
第15回	薬事法その他の関連法規						〃	〃		
第15回	医療従事者が知っておくべき労働法					〃	〃			
テキスト	プリントを配布する(8回目まで)。 授業時に資料を配付する。(9回目以降)									
参考文献	教室にて指示する。									

他科目との 関連	受講者諸君が看護の現場に行くまえに知っておいてほしいことで、全科目と関連しよう。
成績評価 の方法	レポートを課す。講義内容との関連がやや特殊なので初回に注意して聞いてほしい（8回目までの大城担当分）。 出席及び試験により評価する。初回講義時に詳細を説明する。（9回目以降の金高担当分）
学習相談・ 助言体制	講義中もしくは講義終了時に質問あるいは相談してくれたら、その都度対応する。
授業改善の 特記事項	授業評価に記述された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく他、学期中でも受講者諸君の気づいたところがあれば言ってほしい。改善すべきところがあれば随時改善する。
備 考	倫理諸問題は白黒はっきりした答えが出るのが期待しづらく厄介だが、看護職に就く人にはぜひ学んでほしいものである。受講者の積極的な参加を期待する（大城）。 医療が人の生命・健康に直接関わるものであるだけに、医療職にかかわる法制度は複雑で多岐にわたり、かつ日常的な職務遂行においてもこれらの問題に直面する。講義では、それぞれの法が制定されている社会的背景を明らかにし、これらの法律の内容を知識として詰め込むのではなく、それぞれが社会的な規範として制定されている趣旨を学ぶことによって医療関係法規への理解を深める。また、増大する医療事故紛争の実状を紹介し、それに対する法的責任のあり方と医療事故防止の方策を考える。

科目コード	22121	授業科目	疫学と保健医療情報(A, B) (Epidemiology and Health Information (A, B))			担当 教員	○金城芳秀 知念真樹	
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保・看)	授業 形態	講義・演習	
選択必修	必修	時間数	45時間					
履修条件	前提科目							
	その他	なし						
授業概要	社会環境の変化と健康問題との関連について理解を深めるため、健康増進、疾病予防と健康管理についての知識や方法論を学習する。また、人間集団における疾患の広がりとその分布の型、さらにその分布に影響する要因について系統的に分析する方法論を学習する。さらに、統計学的なもののお見方および考え方、データや情報の処理、要約、分析について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の健康と病気に関する情報についての知識と理解を深め、疫学との関連を説明できる。</li> <li>2. 疫学の調査・分析、活用方法が説明できる。</li> <li>3. 保健統計および情報処理に関する知識と理解を深め、主な事項の説明ができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康概念を理解できる。</li> <li>・地域保健（公衆衛生）における疫学の役割を理解できる。</li> <li>・疾病頻度の指標（罹患率、有病率、死亡率など）を理解し、実際に計算できる。</li> <li>・曝露効果の指標（オッズ比、相対危険、寄与危険など）を理解し、実際に計算できる。</li> <li>・疾病の1次予防から3次予防までを理解できる。</li> <li>・疫学調査法（断面的調査、生態学的調査、症例対照調査、コホート調査、無作為割付試験）の特徴を説明できる。</li> <li>・疫学的な因果推論（因果関係の考え方）を理解できる。</li> <li>・統計学的推論として、推定と検定について述べるができる。</li> <li>・母割合と母平均値の推定と検定ができる。</li> <li>・わが国の人口静態統計の特徴を述べることができる。</li> <li>・わが国の人口動態統計の特徴を述べることができる。</li> <li>・コンピュータとインターネットが活用できる。</li> <li>・各種の医療情報サービスにアクセスできる。</li> <li>・各種機関のデータベースから科学的根拠が探索できる。</li> <li>・主な疾患の疫学データや統計データを読み解く視点を持つことができる</li> </ul> </li> </ol>							
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	公衆衛生と健康の概念				学習個所は疫学 情報ノートに提 示する	金城	A・B 合同講義	
第2回	公衆衛生の活動対象としくみ							
第3回	集団の健康をとらえるための手法－疫学							
第4回	(高木兼寛と脚気)							
第5回	疾病頻度の指標							
第6回	曝露効果の指標							
第7回	疫学調査デザイン							
第8回	(事例：JPHC study)							
第9回	疫学的因果推論							
第10回	疾病のスクリーニング							
第11回	感染症対策							
第12回	(事例：感染症事例のリスクアセスメント)							
第13回	統計学的推論（帰無仮説、有意、検定）							
第14回								
第15回								

第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回	テキストから担当テーマ、文献を選択	グループ演習 " " " " " " "	金城・知念	グループ別
テキスト	はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第3版）日本疫学会標準テキスト 2018 医療情報科学研究所 編集：公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア 2018			
参考文献	新谷 歩：みんなの医療統計 12日間で基礎理論とEZRを完全マスター 2016 守山正樹：ナラティブな公衆衛生学・社会医学 マイクロレクチャーオンライン授業 ( <a href="http://social-med.blogspot.jp/">http://social-med.blogspot.jp/</a> )			
他科目との 関連	保健医療情報演習、地域保健看護への導入とする。 本科目は保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。			
成績評価 の方法	確認（20%）、グループ演習（20%）、中間試験（30%）および期末試験（30%）			
学習相談・ 助言体制	講義前後の時間帯にオフィスアワーを設ける。			
授業改善の 特記事項	疫学情報ノートを配布する。学生自身が補完し、授業に臨む。 グループ演習には小教室を2つ活用する。			
備考	教員の免許状（養護教諭二種）取得のための必修科目			

科目 コード	13515	授業 科目	保健医療情報演習 (A, B) Health Information Seminar (A, B)			担当 教員	○金城芳秀 知念真樹	
開講年次	1年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保・看)	授業 形態	演習	
選択必修	必修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	疫学と保健医療情報						
	その他	なし						
授業概要	データ、情報および知識の統合を目指す看護情報学の視点を理解し、的確に意思決定を行うために必要な情報処理能力を学習する。また、保健看護の専門職として健康に関するデータや情報を実践的に活用して、地区のアセスメントの方法論についても学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ、情報および知識の違いを述べることができる。</li> <li>2. 情報分析ツールが活用できる。</li> <li>3. 看護職者に必要な基本的な統計処理ができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データシートを作成することができる。</li> <li>・統計図表を作成することができる。</li> </ul> </li> <li>4. 地区アセスメントに用いられる基本情報について説明できる。</li> <li>5. 保健医療情報について批判的な見方・考え方ができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	データ、情報および知識				参考文献などの 学習すべき箇所 は演習ノートに 提示する	金城	演習	
第2回	患者の権利と個人情報の保護					〃	〃	
第3回	既存情報・文献の収集方法					〃	〃	
第4回	〃					〃	〃	
第5回	データ解析と図・表の作成 (演習)					金城	〃	
第6回	〃					知念	〃	
第7回	〃					〃	〃	
第8回	〃					〃	〃	
第9回	〃					〃	〃	
第10回	〃					〃	〃	
第11回	個人： 統計解析レポート、気になる図／表					金城	〃	
第12回	〃					〃	〃	
第13回	チーム： 統合プレゼンテーション					〃	〃	
第14回	〃					〃	〃	
第15回	保健医療情報の批判的な見方・考え方					〃	〃	
テキスト	はじめて学ぶやさしい疫学 (改訂第3版) 日本疫学会標準テキスト 2018							
参考文献	医療情報科学研究所 編集：公衆衛生がみえる 2018-2019 メディックメディア 2018 疫学会スライドコンテスト 2017年作品 <a href="http://jeaweb.jp/activities/about_epi-research.html">jeaweb.jp/activities/about_epi-research.html</a>							
他科目との 関連	地域保健看護関連科目、看護大学ゼミナール II、III の導入とする。 本科目は、保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。							
成績評価 の方法	個人評価： 統計解析レポート (30%)、 気になる図／表 (20%) チーム評価： 統合プレゼンテーション (50%)							
学習相談・ 助言体制	講義後の時間帯にオフィスアワーを設ける。							
授業改善の 特記事項	疫学会スライドコンテスト 2017年作品など、関連資料を配布する。							
備考	基本的に毎週水曜日に小グループ単位で演習を行う。 Aクラスは10月2日～1月22日の2限目、Bクラスは同期間の1限目を演習時間とする。							

科目 コード	23122	授業 科目	保健医療福祉制度 (Health Care and Welfare System)			担当 教員	○知念真樹 川崎道子 牧内 忍 大湾明美 未定 (非常勤)	
							実務経験：あり	
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目	専門教養科目		授業	講義
選択必修	必修	時間数	30時間	分類	(保・看)		形態	
履修 条	前提科目	なし						
	その他	なし						
講義概要	様々な健康問題を抱え、複雑多様化する社会において、保健医療福祉に関する施策・制度 (医療法・地域保健法・社会福祉法など)、および政策決定過程について学習する。また、歴史的変遷により影響を受けた沖縄の保健医療福祉の特徴についても学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の保健医療福祉の理念を踏まえ、過去と現在の保健医療福祉の概観、及び沖縄の保健医療福祉の特徴が理解できる。</li> <li>2. 看護職者として看護を実践するための基本的な制度 (医療法・保健師助産師看護師法) が理解できる。</li> <li>3. 健やかに生きるための施策・制度が理解できる。</li> <li>4. 生涯発達 (母子・成人・老人) の各段階の基本的な施策・制度が理解できる。</li> <li>5. 倫理を保ちながら共に生きるための施策・制度が理解できる。</li> </ol>							
講義回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	我が国の保健医療福祉の理念と変遷				開講時に、予習すべき資料、テキストの頁、文献等を提示する。必要時レポート等の課題を提示する。グループ討議等を行う際は、必要な事前・事後学習を提示する。	大湾	講義	
第2回	沖縄の保健医療福祉の特徴					川崎		
第3回	医療と制度 (医療法)					知念		
第4回	看護と制度 (保健師助産師看護師法など)					(非常勤)		
第5回	公衆衛生施策・制度 (感染症法など)					(非常勤)		
第6回	沖縄県の保健医療福祉 (行政組織など)					牧内		
第7回	沖縄県の保健医療福祉 (政策形成過程など)					川崎		
第8回	生活を支える施策・制度 (生活保護法など)					牧内		
第9回	母子の施策・制度/学校保健の施策・制度					知念		
第10回	成人の施策・制度/産業保健の施策・制度					知念		
第11回	障害児の施策・制度					大湾		
第12回	障害者の施策・制度					川崎		
第13回	高齢者の施策・制度					知念		
第14回	人権養護の施策・制度/地域づくり・まちづくりの施策・制度					大湾		
第15回	新たな社会保障の動き					川崎		
テキスト	公衆衛生看護学.jp (第4版) データ更新版 インターメディカル 2017 標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論 医学書院 2014 系統看護学講座専門基礎 社会福祉 健康支援と社会保障制度③医学書院 2013							
参考文献	「看護六法」「社会福祉小六法」「看護法令要覧」「国民の福祉と介護の動向」「国民衛生の動向」「公衆衛生がみえる 2018-2019」その他、開講時に紹介する。							

他科目との 関連	沖縄の生活と文化、社会学、法学などの既習科目の内容を基盤として学習する。 本科目は保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価 の方法	授業参加状況20%、レポート10%、筆記試験70%で評価を行う。
学生相談・ 助言体制	出席票に理解できなかった事項や疑問点の記載をもとめ、次回授業時に説明を補充し対応する。 履修上の問題は随時対応する。
授業改善の 特記事項	授業内容を補充・説明する資料を配布する。授業内容と保健師国家試験問題の関連を解説する。
備考	地域保健看護 I・II・III、地域保健看護演習、地域保健実習 II の基礎となる授業である。

科目 コード	23111	授業 科目	家族社会学演習 (Sociology of the Family)			担当 教員	○山口賢一							
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目		授業 形態	演 習						
選択必修	必 修	時間数	30時間											
履修 条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要	学生の積極的な参加も織り込みながら、基礎概念を理解し、それらを応用して現実の家族について考察できるように、家族に関する諸学説、現代社会における家族とその周辺の事象（家族の個人化、家族と市場のジェンダー化、少子高齢化と家族等）について学習する。													
到達目標	近代家族の形成と変化に関する社会学的理解を深め、批判的思考を通じた家族についての考察、発信を可能とする。													
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態							
第1回	社会学とは何か				テーマに沿ってテキスト、参考文献を講読	山 口	演 習							
第2回	家族の多様性と政治性													
第3回	近代化と家族の変化													
第4回	家族と貧困													
第5回	結婚													
第6回	就業と家族													
第7回	妊娠、出産、子育て													
第8回	親-成人子関係													
第9回	グローバル化と家族													
第10回	ジェンダーと家族													
第11～14回	プレゼンテーション													
第15回	総括													
テキスト	岩間暁子ほか編『問いからはじめる家族社会学-多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣													
参考文献	講義中に指示する													
他科目との関連	授業科目全般													
成績評価の方法	定期試験（40％）、プレゼンテーション（40％）、出席・講義参加度（20％）													
学習相談・助言体制	授業毎に質疑応答により理解を助ける。													
授業改善の特記事項	授業毎に一分間メモを用いて疑問点をくみ上げ、次回の授業に反映させる。													
備 考	研修室および電子メール情報については授業内で適宜案内する。定期試験は期末筆記試験あるいはレポート提出。													



科目 コード	22141	授業 科目	身体活動論 (Physical Activity Studies)			担当 教員	○牧内忍		
			実務経験：あり						
開講年次	1年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義		
選択必修	必修	時間数	15時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	QOL を高めるために必要な個人的資源としての「心身の健康」について考え、身体活動とエネルギー代謝、発育や加齢に伴う身体活動の特徴や、活動量の評価法など、個人にとって適切な自立的身体活動の実施と継続の諸条件と方法を広く学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康、QOL、身体活動の定義について述べるができる。</li> <li>2. 体力・抵抗力、エネルギー代謝の仕組みについて理解できる。</li> <li>3. 生活習慣病や健康増進と身体活動の関連について理解できる。</li> <li>4. 発育・加齢に伴う身体活動について理解できる。</li> <li>5. 安静時、運動時の身体活動量の評価について理解できる。</li> <li>6. 運動のメリットとデメリット、継続要因について述べるができる。</li> <li>7. 身体活動と休養、睡眠、栄養について理解できる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	ガイダンス、心身の健康と QOL、身体活動の定義 身体活動の種類と体力・抵抗力 エネルギー代謝と消費カロリー 生活習慣病と健康政策 発育・加齢に伴う身体活動 日常生活と有酸素運動に伴う身体活動量の評価 運動のメリットとデメリットおよび継続要因 身体活動と休養、睡眠、栄養、まとめ				本シラバス に示す「授業 内容、計画」 についての 事前、事後学 習は、各講義 時に詳細指 定を行う。	牧内	講義		
テキスト	特に指定しない。そのつど資料を配付する。								
参考文献	「筋トレ以前のからだの常識」講談社、「21世紀の健康・体力づくり」大修館、「健康づくりへのアプローチ」文光堂、「慢性疾患に対する身体活動のすすめかた」文光堂								
他科目との 関連	「ストレスマネジメントと健康教育」および「地域保健看護」関連科目、選択科目の身体活動論演習との関わりを意図した科目とする。								
成績評価 の方法	講義参加状況・学習態度20%、小テスト20%、期末テスト40% ポートフォリオ10%、レポート10%								
学習相談・ 助言体制	各講義中および終了後30分は質問・相談を受ける。毎時間出席・所感票を書かせ、書面でも質問できるよう配慮する。質問事項に対する回答は講義内でまとめて行う。								
授業改善の 特記事項	授業期間中、2～4回の小テストに合わせて学生による授業評価を実施し、その対応可能性に応じて、速やかな改善の実施およびその他必要に応じた説明を行う。								
備 考	グループワークを通して学びを深め、簡単な運動を行いつつ、身体活動を体感してもらう。体調不良や運動実施にあたって制限等のある学生は、事前に連絡をすること。								

科目コード	22143	授業科目	身体活動論演習 (英訳: Physical Activity Seminar)			担当 教員	○牧内忍 知念康代 (非常勤)	
							実務経験: あり	
開講年次	3年次 前期	単位数	1単位	科目分 類	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	選 択	時間数	30時間					
履修条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	運動が体と心に及ぼす影響を実感すると共に、継続的な運動を通して体を動かすことや仲間と共に運動することの楽しさを体験し、生活の中に運動を取り入れ習慣化するための方法を学ぶ。							
到達目標	1. 運動が体と心に及ぼす影響を実感する。 2. 継続的な運動を通して体を動かすことや仲間と共に運動することの楽しさを体験する。 3. 自己の生活の中に、楽しく体を動かす方法 (日常生活の動きの中で楽しく体を動かす、日常生活から離れて楽しく体を動かす、鍛えた運動能力を試す) を取り入れる。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	*15回中13回(26時間)は体育館で行う(A・Bクラス) *最後の回(2コマ連続)は屋外に出て全員で運動する。  「身体活動論演習」導入 自己の体の動きや姿勢を観察し、運動習慣を評価する。 姿勢・動きを見る、ひずみに気づく、ひずみを整えて変化を感じる。自己の運動習慣を評価する。				開講年度始めに提示する。	牧内 知念	演 習	
第2~13回	体を動かす楽しさと継続的に運動することによる心身の変化を体験する。 気功・エアロビクス・ジャズダンスなど 自己の体の動きや姿勢を観察し、運動習慣の変化を評価する。					知念		
第14・15回	自然の中で、全員で運動する。					牧内 知念		
テキスト	開講年度初めに提示							
参考文献	開講年度初めに提示							
他科目との 関連	「身体活動論」(1年次前期)							
成績評価 の方法	授業への参加状況80%、レポート20%							
学習相談・ 助言体制	授業評価に記述された疑問に関しては次回授業で取り上げる。 個別の相談には随時対応する。							
授業改善の 特記事項	授業評価に記述された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく。							
備 考	養護教諭2種免許資格を希望する者は必修。 体調不良および運動実施にあたって制限等のある学生は事前に連絡をすること。							

科目コード	22142	授業科目	ストレスマネジメントと健康教育 (Stress Management and Health Education)			担当教員	○渡久山朝裕 牧内忍 知念真樹		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	講義・演習		
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	ストレスの概念、各種ストレス、ストレス反応及び調整因子を理解した上で、ストレスに関する特徴ならびにストレスのアセスメントおよびストレスマネジメントの方法論を学習する。また、保健看護の専門職者として、多くの人々がQOLを高められるような健康教育の方法論についても学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストレスの概念、ストレス、ストレス反応等について説明できる。</li> <li>2. 自らのスモールライフイベントから発生するストレス反応に気づくことができる。</li> <li>3. ストレスのアセスメントとマネジメントが実践できる。</li> <li>4. 保健看護職者として必要な健康教育の方法論を身につけ、基礎的な教育実践ができる。</li> </ol>								
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	ガイダンスおよびストレスマネジメントの概要 ストレス解消法アンケート					本シラバスに示す「授業内容、計画」についての事前、事後学習は、各講義時に詳細指定を行う	渡久山	講義・演習	
第2回	ストレスの本質1 (ストレスおよびストレス反応) 自律訓練法の練習						〃	〃	
第3回	ストレスの本質2 (ストレス評価およびコーピング) ストレス関連疾患について						〃	〃	
第4回	自律訓練イメージの練習・認知行動療法①						〃	〃	
第5回	認知行動療法② (詳細解説) ビデオ学習						〃	〃	
第6回	予防的ストレスマネジメントとリラクゼーション技法 バイオフィードバック						〃	〃	
第7回	中間テスト						〃	〃	
第8回	健康教育と保健行動						牧内	講義・演習	
第9回	健康行動理論1						知念	〃	
第10回	健康行動理論2 (演習)						〃	〃	
第11回	健康行動理論2 (演習)、教育方法の基礎						〃	〃	
第12回	指導案、教育教材作成について						牧内・	〃	
第13回	教育方法に関するグループディスカッション						知念	〃	
第14回	教育方法に関するグループディスカッション						〃	〃	
第15回	教育方法に関するグループディスカッション						〃	〃	
テキスト	荒賀直子 後閑容子(編)「公衆衛生看護学.jp 第3版」 インターメディカル 2011								

参考文献	野村忍（著）「情報化時代のストレスマネジメント」日本評論社 2006 「包括的ストレスマネジメント」医学書院, 「学校, 職場, 地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル」北大路書房, 「認知行動療法 100 のポイント」金剛出版, 「健康教育論」メチカルフレンド社, 「健康行動理論-実践編-」医歯薬出版株式会社 ほか
他科目との関連	「地域保健看護」関連科目、地域における健康教育、学校保健領域との関わりを意図した科目とする。
成績評価の方法	前半（心理担当）中間テスト50%、 後半（地域担当）授業参加状況・演習レポート20%、期末試験30%
学習相談・助言体制	各講義中、終了後など定期的に質疑を受ける場面を設定し、講義内での説明を行う。
授業改善の特記事項	授業期間中、2回程度学生による授業評価を実施し、その対応可能性に応じて、速やかな改善の実施およびその他必要に応じた説明を行う。
備考	なし

科目 コード	21010	授業 科目	人体の構造と機能 (Structure and Functions of the Human Body)			担当 教員	○佐伯宣久	
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	45時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	人体を構成する細胞・組織・器官などの形態と構造を把握すると共に、人体全体の位置関係を理解し機能と関連性をつけながら学習する。また、人間の生命現象がどのようなメカニズムで行われているかについても学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の基本構成単位である細胞の構造及び核や細胞小器官の機能について理解する。</li> <li>2. 人体が形成される胎児期の発生について理解する。</li> <li>3. 主要な骨の位置と名称を覚え、骨格系の機能を理解する。</li> <li>4. 主要な筋の位置・名称・機能を覚え、筋収縮のメカニズムを理解する。</li> <li>5. 神経活動電位の発生メカニズムと神経系の機能を理解し、主な末梢神経の名称と走行を覚える。</li> <li>6. 血液を構成する細胞や物質を覚え、それらの機能を理解する。</li> <li>7. 心臓の構造と機能、体循環と肺循環、刺激伝導系について理解する。</li> <li>8. 主要な血管・リンパ管の名称と走行を覚え、循環器系の機能を理解する。</li> <li>9. 呼吸器系の構造とガス交換のメカニズムを理解する。</li> <li>10. ホルモンとその分泌組織を把握し生体調節でのそれぞれホルモンの役割を理解する。</li> <li>11. 泌尿器系の構造を覚え、体液調節のメカニズムとその異常について理解する。</li> <li>12. 循環器などの機能を不随意に調節している自律神経系の役割を理解する。</li> <li>13. 眼や耳などの感覚器の構造と機能を細胞レベルあるいは分子レベルで理解する。</li> <li>14. 消化器系臓器の名称と構造を覚え、これらによる栄養吸収のメカニズムを理解する。</li> <li>15. 生殖器の構造と妊娠のメカニズムを理解する。</li> <li>16. 体内の異物や微生物を排除するメカニズムについてその概要を理解する。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	人体の基本構成単位“細胞”				知識を確かなものにするために、講義後の自己学習をしっかりと行っていただきたい。	佐 伯	講 義	
第2回	“遺伝情報”と“ヒトの発生”							
第3回	運動とカルシウム貯蔵に重要な“骨格系”							
第4回	体幹と四肢の骨格							
第5回	人体の運動に重要な“筋系”							
第6回	主な骨格筋とその機能							
第7回	“脊髄と脊髄神経”							
第8回	細胞に酸素や栄養を供給する“血液”							
第9・10回	全身に血液を送り出す“心臓”							
第11回	血液・体液の循環を担う“血管・リンパ管系”							
第12回	酸素・二酸化炭素の交換を行う“呼吸器系”							
第13回	ホルモンによる生体機能の調節を行う“内分泌系”							
第14回	体液を管理する“泌尿器系”							
第15回	腎臓による“体液・電解質の調節”							
第16回	腎臓・肺による“酸塩基平衡の調節” 神経による生体機能の調節“自律神経系”							

第17回	思考と行動を司る“脳”			
第18・19回	外界の情報収集を行う“感覚系・特殊感覚系”			
第20・21回	体内に栄養を取り込む“消化器系”			
第22回	次世代に命をつなげる“生殖器系”			
第23回	異物や微生物から身体を守る“免疫系”			
テキスト	細谷安彦・他 編訳：トータル人体の構造と機能 第4版，丸善 2012			
参考文献	伊藤隆・高野廣子：解剖学講義 改訂第3版，南山堂 2012 御手洗玄洋 総監訳：ガイトン生理学 原著第11版，エルゼビアジャパン 2010 入村達郎・他監訳：ストライヤー生化学 第7版，東京化学同人 2013 北岡建樹：水・電解質の知識 改訂2版，南山堂 2012			
他科目との 関連	看護専門科目全般			
成績評価 の方法	期末試験により評価する。			
学習相談・ 助言体制	自己学習によっても解消しない疑問などについては適宜対応する。			
授業改善の 特記事項	試験結果及び学生の意見を参考にして、授業内容の改善を図る。			
備考	講義では解剖生理学で学ぶべき重要事項について解説する。 医療や教育の現場で使える確かな知識とするために、講義を参考に自己学習を行うことにより理解を深め身につけていただきたい。			

科目コード	21011	授業科目	人体の構造と機能演習 I (Laboratory Studies of Structure and Functions of the Human Body I)			担当教員	○佐伯宣久 石田肇 (非常勤) 比嘉真理子 (非常勤)		
開講年次	1年次 後期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	演習		
選択必修	必修	時間数	60時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	講義で学んだ知識を実践的に身につける目的で、心機能、呼吸機能などの生体諸機能測定法や人体の構造・機能を把握し各グループごとに行う。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各臓器・器官系の位置と名称を覚える。</li> <li>2. 各組織の構造とその機能との関連について理解する。</li> <li>3. 画像検査から得られる情報について解剖生理学的観点から理解する。</li> <li>4. 呼吸器・循環器機能の測定から得られる情報について解剖生理学的観点から理解する。</li> <li>5. 血液などの生体試料の検査から得られる情報について解剖生理学的観点から理解する。</li> </ol>								
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
全30回 演習番号					事前に演習ガイドを読み演習内容を把握しておく必要がある。	佐伯 " 石田 比嘉 佐伯 " 比嘉 佐伯 " "	演習		
①	人体模型観察								
②	画像情報演習 (及び人体模型観察の試験)								
③	人体解剖見学								
④	脳波測定								
⑤	血圧測定								
⑥	心電図								
⑦	腱反射・関節可動域測定・対光反射・眼底観察								
⑧	ABO式血液型検査/血液凝固実験/脳波解析								
⑨	組織標本の顕微鏡観察								
⑩	生化学実験 (核酸を用いた実験)								
⑪	心音・呼吸音・パルスオキシメトリー・スパイロメトリー								
テキスト	教員が作成する「演習ガイド&レポート」に従って演習を進める。								
参考文献	細谷安彦・他 編訳：トートラ人体の構造と機能 第4版、丸善 2012 その他授業時に適宜紹介する。								
他科目との関連	看護専門科目全般								
成績評価の方法	演習への参加状況、レポート、テストにより評価する。								
学習相談・助言体制	授業時に質問や相談に対応し、適宜助言を行う。								
授業改善の特記事項	学生の演習達成度や理解度について適宜検討し、演習内容の改善を図る。								
備考	演習内容に応じて数人を1グループにして演習を行う。								

科目コード	21012	授業科目	人体の構造と機能演習Ⅱ (Laboratory Studies of Structure and Functions of the Human Body Ⅱ)			担当教員	○佐伯宣久	
開講年次	3年次 前期	単位数	1単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	演習	
選択必修	必須	時間数	30時間					
履修条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	臨地実習での経験をもとに、学生が小グループ単位で能動的に演習し、特に主要な人体の構造と機能について学習する。							
到達目標	これまでの講義で学んだことや臨地実習での経験に基づき、学生自身が設定したテーマについて学習し、その成果を発表することを通して、人体の構造と機能、疾患の病態生理などについてさらに理解を深める。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
全15回	設定されたテーマについて各グループで学習し、その成果を発表する。 (詳細については第1回の授業で説明する)				与えられたテーマについて発表できるよう準備する。	佐伯	演習	
テキスト	特になし。							
参考文献	必要に応じて参考文献を紹介する。							
他科目との関連	看護専門科目全般							
成績評価の方法	学習成果の発表とレポートで評価する。							
学習相談・助言体制	授業時などに質問や相談に対応し、適宜助言を行う。							
授業改善の特記事項	設定できるテーマの範囲を工夫して、できるだけ興味あるテーマに取り組んでいただく予定である。							
備考	演習は3人程度を1グループにして行う。							



科目コード	21121	授業科目	栄養と代謝 (Biochemistry and Nutrition)			担当教員	○新城澄枝 (非常勤)		
開講年次	1年次 後期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目		授業形態	講義	
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	生命維持や健康の保持増進と栄養との関連を生理・生化学的に学習すると共に、代謝のメカニズムを把握し、栄養素が人体に及ぼす影響を学習する。また、メタボリック症候群に関連する健康問題と食生活の関係について学ぶと共に、科学的根拠に基づいた食の選択、バランスのとれた食生活の実践方法について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命維持や健康の保持増進の面から食生活の意義について述べることができる。</li> <li>2. 栄養素の種類、消化・吸収、代謝と健康との関係について説明することができる。</li> <li>3. エネルギー、各種栄養素の量と質についての理解を深め、バランスの良い食生活について説明することができる。</li> <li>4. 食事の意義や現代における食生活と健康問題との関係について述べるができる。</li> <li>5. 生活習慣病の発症・重症化予防について、メタボリックシンドロームの概念に基づき説明することができる。</li> <li>6. 科学的根拠に基づいた食の選択・実践能力を培い、食の自己管理能力を高める。</li> </ol>								
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	1. 健康と食生活 (1)					関連配布資料 課題レポート	新城	講義	
第2回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体の構成成分と食品の構成成分 (栄養素)</li> <li>2) 生体内環境の維持と食事支援</li> <li>3) 生物にとって食べることは (摂食の意義)</li> <li>4) 五(六)大栄養素について</li> </ol>								
第3回	<ol style="list-style-type: none"> <li>5) 生体エネルギー・ATP とエネルギー代謝について、</li> <li>6) 栄養素等摂取基準、日本食品標準成分表について</li> <li>7) 正しい食生活 (食事) とは</li> </ol>								
第4回	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 消化器系器官と消化・吸収の概略</li> <li>1) 消化管ホルモン、代表的な消化酵素、</li> <li>2) 小腸の構造と機能、管腔内消化と膜消化について、</li> <li>3) 吸収経路 (門脈系、リンパ系) と栄養素の種類</li> </ol>								
第5回	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 細胞内小器官とその機能</li> <li>4. 炭水化物 (糖質) の消化・吸収と代謝</li> <li>1) 糖質の生理機能</li> <li>2) 炭水化物 (糖質) の化学的消化と吸収</li> <li>3) 単糖類、二糖類の膜消化と吸収経路</li> <li>4) 主な臓器と glucose transporter</li> <li>5) インスリン作用と GLUT (グルット) 4 の関係</li> <li>6) 食後および空腹時の血糖調節</li> <li>7) 主な臓器における糖質代謝 解糖・TCA・電子伝達系、グリコーゲン回路 グルクロン酸経路、五炭糖リン酸回路、糖新生系</li> </ol>								
第5回	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. たんぱく質の消化・吸収と代謝</li> <li>1) たんぱく質の生理機能</li> <li>2) 消化器系器官とたんぱく質の化学的消化と吸収</li> <li>3) ペプチド、アミノ酸の膜消化と吸収経路</li> <li>4) アミノ酸とペプチドの吸収の違い</li> <li>5) アミノ酸の代謝、核酸およびたんぱく質の合成</li> <li>6) たんぱく質と食物アレルギー</li> </ol>					関連配布資料 課題レポート			

第 6 回	7) たんぱく質の変性と消化吸収、低アレルギー化 8) たんぱく質変性を利用した調理・加工例 6. 脂質の消化・吸収と代謝 1) 胆汁酸の腸肝循環 2) 長鎖脂肪酸のトリグリセライドの消化と吸胆 3) 中鎖脂肪酸のトリグリセライドの消化と吸収 4) 循環脂質の種類と役割 5) リポ蛋白形成の意義 6) リポ蛋白の種類と機能 7) 体内でのリポ蛋白の移動と代謝 8) 脂肪酸代謝、コレステロール代謝 9) コレステロール代謝とステロイドホルモン産生	関連配布資料 課題レポート		
第 7 回	7. エネルギー代謝 1) 適正 P:F:C バランス下における三大栄養素のエネルギー産生相関 2) PFC アンバランス下でのエネルギー代謝 例：糖尿病患者と糖質抜きダイエット者のエネルギー代謝 3) 脂肪酸の $\beta$ -酸化亢進とケトン体産生	関連配布資料 課題レポート		
第 8 回	8. ビタミンとミネラル	関連配布資料		
第 9 回	9. 21 世紀の健康づくり：国の健康・栄養施策	課題レポート		
第 10 回	10. 健康と食生活（2） 1) 思春期・青年期の食生活の現状 2) 食情報の氾濫，フードファディズムと食の選択能力 3) 18 歳までに育てたい食の自己管理能力			
第 11 回	11. 生活習慣病発症予防のための食生活（1） 1) 食生活とメタボリックシンドロームの深い関係 2) 過剰栄養・低栄養とインシュリン抵抗性 3) エネルギー，各種栄養素の質・量のバランスとは	関連配布資料 課題レポート		
第 12 回	12. 生活習慣病発症予防のための食生活（2） 1) バランスのとれた食生活：四群点数法：基礎編 2) 発達段階に応じた四群点数法の活用：応用編 1	関連配布資料 課題レポート		
第 13 回	13. 生活習慣病重症化予防・治療の食生活（1） 1) 科学的根拠に基づいた減量の重要性 2) PFC バランスと疾患：糖質抜きダイエットの危険性	関連配布資料 課題レポート		
第 14 回	14. 生活習慣病重症化予防・治療の食生活（2） 1) 四群点数法応用編：貧血，脂肪肝，糖尿病，腎症等 2) 体重計，血圧計，四群点数法活用で賢い食事管理	関連配布資料 課題レポート		
第 15 回	15. まとめ：沖縄百寿者に学ぶ健康のための食生活	関連配布資料 課題レポート		
テキスト	資料を配布する。			
参考文献	「新しい食物学-食生活と健康を考える-改訂第 2 版」加藤陽治/長沼誠子編集、南江堂、2009 「標準的な健診・保健指導プログラム(確定版)：全 4 冊」厚生労働省健康局、平成 19 年 4 月 「健康の科学シリーズ 9 沖縄の長寿」日本栄養・食糧学会監修、関西学会出版センター			
他科目との 関連	「栄養と代謝」の前半部は、後半部への導入とする。			
成績評価の 方法	出席 20%、学習参加状況・課題レポート 60%、小テスト 20%			
学習相談・ 助言体制	毎回の授業ごとに、関連のある課題レポートを課す。レポートは次回の授業までに提出を求め、講義内容についての理解を広げ深める方法の体験を促す。			
授業改善の 特記事項	講義内容を伝達するための講義資料を随時作成し、配布する。			
備 考	なし			

科目コード	21131	授業科目	臨床薬理 (Clinical Pharmacology)			担当 教員	○未定(非常勤)	
開講年次	2年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義	
選択必修	必修	時間数	30時間					
履修条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	薬物と人体との関わりについて、薬物がどのように身体に影響を及ぼすかを人体構造学、生体機能学、細菌学などの知識を基に学習する。また、臨床的な立場から、薬剤の種類、主作用と副作用、薬の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄等)などを学習する。							
到達目標	1. 薬物と人体との関わりについて、薬物が身体に及ぼす影響を生体機能学、細菌学の視点から説明できる。 2. 病態生理の視点から薬剤の種類、主作用と副作用、薬の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄等)を説明できる。							
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	総論							
第2回	循環系治療薬Ⅰ(狭心症治療薬, 心筋梗塞治療薬, 心不全治療薬)				P. 2~17	未定	講義	
第3回	循環系治療薬Ⅱ(高血圧治療薬, 低血圧治療薬, 抗不整脈薬, 脂質異常症治療薬)				P. 18~46			
第4回	消化系治療薬Ⅰ(消化性潰瘍治療薬, 健胃・消化・制酸・制吐薬, 便秘の治療薬, 下痢の治療薬)				P. 47~69			
第5回	消化系治療薬Ⅱ(肝疾患治療薬, 胆道・膵臓系治療薬, 痔の治療薬)				P. 70~88 P. 89~103			
第6回	呼吸系治療薬(気管支喘息治療薬)				P. 104~125			
第7回	内分泌・代謝系治療薬(糖尿病治療薬, 甲状腺疾患治療薬, 高尿酸血症治療薬)				P. 126~130 P. 131~137			
第8回	腎臓病治療薬(腎疾患治療薬)				P. 138~148			
第9回	抗炎症・抗アレルギー薬(リウマチ治療薬)							
第10回	ホルモン剤(前立腺肥大症治療薬, 更年期障害治療薬)				P. 149~153			
第11回	骨・カルシウム代謝薬(骨粗鬆症治療薬)				P. 154~169			
第12回	感染症治療薬(全身感染症治療薬, 白癬薬・アトピー性皮膚炎治療薬)				P. 170~185			
第13回	神経・精神系治療薬Ⅰ(統合失調症治療薬, 不安・不眠治療薬, 頭痛の治療薬)				P. 186~206			
第14回	神経・精神系治療薬Ⅱ(うつ病の治療薬, てんかんの治療薬, パーキンソン病治療薬)				P. 207~223 P. 224~232			
第15回	がん治療薬(がんの治療薬, 抗がん薬の副作用対策) その他の治療薬(緑内障・白内障の治療薬, 貧血の治療薬)							
テキスト	中原保裕: 処方わかる医療薬理学 2014-2015, 学研, 2011.							
参考文献	講義時に紹介する。							
他科目との関連	人体の構造と機能、人体の構造と機能演習Ⅰ、栄養と代謝、微生物と免疫、病態生理、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ							
成績評価の方法	出席、レポート、筆記試験で評価を行う。							
学習相談助言体制	毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめ、次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。							
授業改善の特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。							
備考	学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。							

科目コード	21160	授業科目	微生物と免疫 (Microbiology and Immunology)			担当教員	○佐伯宣久 岸本英博(非常勤) 當眞弘(非常勤)		
開講年次	1年次 後期	単位数	2単位	科目分類	専門教養科目	授業形態	講義		
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	看護を学ぶにあたり必要な、主たる病原微生物の特徴と感染・発症、および、生体防御機構について学ぶ。そして、人間はどのようなしくみで病原微生物からからだを守っているのかを生体と病原微生物の相互関係の観点から学ぶとともに、免疫反応の多様性について理解を深める。また、新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等について学び、感染予防を行ううえで必要な感染症の知識を修得する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病原微生物と関連する疾患について理解する。</li> <li>2. 病原微生物から体を守る生体防御機構について理解する。</li> <li>3. 新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等について理解する。</li> <li>4. 感染予防や感染拡大を防ぐための感染コントロールについて理解する。</li> <li>5. 疾患と関わりのある寄生虫などの多細胞生物や自然界の危険生物について理解する。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
授業番号	① ウイルス (1) 主に小児期に問題となるウイルス －麻疹ウイルス・風疹ウイルス・水痘ウイルスなど ② ウイルス (2) 主に成人期に問題となるウイルス －肝炎ウイルス、レトロウイルスなど ③ ウイルス (3) 主に海外で問題となっているウイルス －狂犬病ウイルス、エボラウイルス、プリオンなど ④ ウイルス (4) ヒト免疫不全ウイルス、母子感染症 ⑤ 細菌(1)：総論・ブドウ球菌・連鎖球菌など ⑥ 細菌(2)：大腸菌・赤痢菌・コレラ菌など ⑦ 細菌(3)：結核菌・マイコプラズマ・真菌など ⑧ 院内感染症とそのコントロール：消毒、院内感染対策など ⑨ 免疫 その1 (免疫・生体防御機構概説) ⑩ 免疫 その2 (腫瘍免疫・移植免疫、) ⑪ 免疫 その3 (アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全) ⑫ 感染予防と予防接種 ⑬ 寄生虫・医動物(1) 寄生虫、節足動物、 ⑭ 寄生虫・医動物(2) 沖縄の危険生物など ⑮ 寄生虫・医動物(3) 寄生虫の観察実習					事後学習をしっかりと行っていただきたい。	佐 伯 " " " " " " " 岸 本 佐 伯 " " 當 眞 " "	講 義	
テキスト	藤本秀二 編著：わかる 身につく 病原体・感染・免疫 改訂第3版，南山堂 2017								
参考文献	医療情報科学研究所 編集：病気がみえる Vol. 6, メディックメディア 吉田幸雄・有菌直木： 凶説人体寄生虫学 改訂9版，南山堂 2016 篠永・野口・今泉・小川 監修：フィールドベスト図鑑 危険・有毒生物，学研教育出版 2014 松島綱治・山田幸宏 監訳：分子細胞免疫学 原著第7版，エルゼビアジャパン 2014 高津聖志・清野宏・三宅健介 監訳：免疫学イラストレイテッド 原著第7版，南山堂 2009								
他科目との関連	生活援助・療養援助技術Ⅰ、病態生理、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ								

成績評価の方法	期末試験及び講義で出される課題により評価する。
学習相談・助言体制	自己学習によっても解消しない疑問などについては適宜対応する。
授業改善の特記事項	各種疾患に関する講義は「人体の構造と機能」「微生物と免疫」「疾病論Ⅰ・Ⅱ」の4科目で網羅しており、過不足無く効率的に学習できるよう、毎年度授業内容を見直している。
備考	本科目では病原性を持つ生物とそれが原因で起こる感染症について講義を行う。疾病論でも臓器別に感染症に触れるが、多くの感染症について、症状や治療を含めて本科目で扱うことになる。講義を参考に自己学習をしっかり行い理解を深めていただきたい。

科目 コード	21143	授業 科目	病態生理 (Pathophysiology)			担当 教員	○未定 (非常勤)		
開講年次	2年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必 修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	疾病の成り立ちを病態生理学的に学習する。循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系、生殖器系、造血器系、脳・神経系、内分泌系、運動・感覚器系、皮膚など臓器・組織別に病態生理、症状について学習する。								
到達目標	1. 代謝性疾患、内分泌疾患、免疫性疾患の全身性疾患の病態生理、症状について説明できる。 2. 腫瘍性疾患の病態生理、症状について説明できる。 3. 臓器・組織別疾患の病態生理、症状について説明できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	1. 病態生理学を学ぶための基礎知識 1) ①正常と病態生理、②循環障害、③変性、 ④炎症				P2-19	未 定	講 義		
第2回	2) ⑤感染症、⑥腫瘍、⑦先天異常と遺伝子異常、 ⑧変形・圧迫による障害、⑨老化と死				P19-35				
第3回	2. 皮膚・体温調整の異常				P38-46				
第4回	3. 免疫による防御の異常				P48-63				
第5回	4. 体液調節の異常				P66-79				
第6回	5. 血液の異常				P82-99				
第7回	6. 循環の異常				P102-127				
第8回	7. 呼吸の異常				P130-149				
第9回	8. 消化・吸収の異常 1) ①消化管、②肝臓、				P152-179				
第10回	2) ③膵臓、④腹膜腔・腹膜・腸管膜				P179-187				
第11回	9. 腎・泌尿器の異常				P190-208				
第12回	10. 内分泌・代謝の異常				P210-232				
第13回	11. 生殖の異常				P234-243				
第14回	12. 脳・神経、筋の異常				P246-268				
第15回	13. 感覚器の異常				P270-278				
テキスト	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 医学書院								

参考文献	ナースの内科学 改訂7版 中外医学社 臨床病態学1 NOUELLE HIROKAWA 臨床病態学2 NOUELLE HIROKAWA 臨床病態学3 NOUELLE HIROKAWA
他科目との関連	人体の構造と機能、人体の構造と機能演習Ⅰ、栄養と代謝、微生物と免疫、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ
成績評価の方法	筆記試験(100%)、出席状況等で評価を行う。
学習相談助言体制	講義の途中、あるいは講義終了時に質疑等を受ける。
授業改善の特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。
備考	学生は事前に次回使用のテキスト箇所を読み、準備して授業に臨むこと。

科目 コード	22171	授業 科目	リハビリテーション論 (Rehabilitation Medicine)			担当 教員	○大田仁史(非常勤) 伊志嶺恒洋	
開講年次	3年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	15時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	リハビリテーションの語源である「ハビリス」を通してすべてのステージのリハビリテーション・ケアの内容を吟味する。緩和ケアのなかにいる人々や、改善しない重度の障害をおった人々、また命の終焉のちかい高齢者にも「ハビリス」の精神が行き届くよう、「介護期・終末期リハビリ」を提唱する。							
到達目標	リハビリテーション医療の流れについて理解する。廃用症候群について理解できる。「介護期・終末期リハビリテーション」について理解できる。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	「ハビリス」を考える リハビリテーションの語源からリハビリテーションの本質を考える。病期を通して廃用症候群の予防の必要生を理解する。「寝たきり老人の介護」を供覧。						大 田	講 義
第2回	芯から支える在宅リハビリ～集団アプローチの意味～ 中途障害者の苦悩を考え、在宅療法で孤立からの脱出、社会性の獲得のために集団アプローチが有用であることを理解する。							
第3回	介護期・終末期リハビリテーション 急性期からのリハビリテーションの医療の流れを包括的に捉え、終末期においても人の尊厳を守るためにリハビリテーションの考えと手法が重要であることを学ぶ。							
第4回	超高齢社会の介護予防 日本が突入した高齢社会は「異次元」とも言われる。これを取り切るには国民の自助・互助に基づいた「介護予防」の実践が欠かせない。茨城県が進めているシルバーリハビリ体操指導士養成事業の実際から介護予防の重要性を学ぶ。							
第5回～8回	リハビリテーション医療について							
テキスト	なし							
参考文献	「新・芯から支える」大田仁史著 荘道社 2006, 「実践・終末期リハビリテーション」大田仁史監修著 荘道社 2003, 「介護予防と終末期のリハビリテーション」大田仁史著 荘道社 2015							
他科目との 関連	授業科目全般							
成績評価 の方法	出席率とテストで評価する。							
学習相談・ 助言体制	講義終了後個別に対応する。							
授業改善の 特記事項	授業評価に記述された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく。							
備 考	主としてパワーポイントを用いて講義する。							



科目コード	22152	授業科目	臨床心理 (Clinical Psychology)			担当 教員	○渡久山朝裕 大川嶺子		
開講年次	1年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保・看)	授業 形態	講義		
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	人間の知的能力や性格傾向、臨床症状などを把握するための心理アセスメントについて、実際に体験し、自己分析を交えながら系統的に学習することで、専門家が記述した所見レポート等が理解でき、看護実践に活用できる能力を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問紙法や投影法などの心理アセスメントを体験し、分析してみるができる。</li> <li>2. 心理アセスメントの効能と限界を説明できる。</li> <li>3. 臨床心理士など、心の専門家が記述した所見レポート等が理解できる。</li> <li>4. 所見レポート等を看護実践に活用できる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事後学習	担当者名	授業形態		
第1回	授業の概要説明、看護と心理アセスメント、心理検査の基礎				資料	渡久山	講 義		
第2回	知能検査、発達検査、痴呆スクリーニング検査				P. 12-14	〃	〃		
第3回	人格検査①エゴグラム、バーンの交流分析				P. 18	〃	演習・講義		
第4回	〃 ②HTPテスト(家屋・樹木・人物描画テスト)				P. 24-25	〃	演 習		
第5回	〃 〃 〃 : 事例研究				資料	〃	演習・講義		
第6回	〃 ③質問紙法: YG性格検査				P. 16	〃	〃		
	〃 ④質問紙法: 不安検査				P. 27	〃	〃		
	〃 ⑤質問紙法: うつ尺度				P. 27	〃	〃		
第7回	〃 ⑥作業検査法 内田クレペリン精神検査				P. 19-20	〃	演習・講義		
第8回	〃 ⑦投影法: TAT (主題統覚検査)				P. 22-23	〃	講 義		
	〃 ⑧投影法: SCT (文章完成法テスト)				P. 23-24	〃	〃		
第9回	〃 ⑨投影法: 箱庭療法 観察面接室見学、ビデオ学習				P. 64-66 資料	〃	〃		
第10回	〃 ⑩投影法: コラージュ療法				資料	〃	演習・講義		
第11回	〃 ユングの分析心理学、ビデオ学習				資料	〃	講 義		
第12回	〃 ⑪投影法: ロールシャッハテスト I、 ビデオ学習				P. 21-22	〃	〃		
第13回	〃 : ロールシャッハテスト II				資料	〃	〃		
第14回	所見レポートの理解、看護実践への活用 ミニ・レポート				資料	大川	〃		
第15回	授業の振り返り、まとめ					渡久山	〃		
テキスト	「臨床心理学」: 名嘉幸一編著 中外医学社 ¥2,400								
参考文献	「交流分析療法—エゴグラムを中心に—」: 新里里春著 チーム医療 ¥2,678 「描画テスト入門—HTPテスト—」: 高橋雅春著 文教書院								
他科目との 関連	「心理学」「人間関係論」での学習を土台にし、さらに臨床心理学への理解を深める。								
成績評価 の方法	期末レポート40%、期末試験60%								

学習相談・ 助言体制	毎回の授業の終了時に提出させる出席カードに、理解できなかった内容、疑問に感じた点等を記述させ、次回の授業の冒頭で説明・補足を行う。 授業終了後はしばらく教室に居り、学生が個人的に質問できる機会をつくる。演習に抵抗を示す学生は授業外で個別指導の機会を設ける。
授業改善の 特記事項	この科目について、授業の最終日にアンケート調査を行い、学生たちから指摘された改善点や修正点を検討し、次年度に活かしていく。
備 考	先入観を持たずに心理アセスメントを体験してもらいたいため、事前学習は行わず、事後学習を行うこと。演習に積極的に参加し、実践的に学ぶ態度を持つこと。

科目 コード	22153	授業 科目	人間関係論 (Human Relations)			担当 教員	○渡久山朝裕 大川嶺子		
開講年次	1年次	前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保・看)	授業 形態	講義・演習	
選択必修	必修		時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	心の健康や対人関係における適応などの問題に悩む個人・家族・集団への心理的援助方法としてカウンセリングの理論と方法を実践的に学習し、それを基礎として看護実践で行われる面接、健康相談、コンサルテーション、ケアマネジメント等への応用も学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ロジャースの人間中心理論を理解できる。</li> <li>2. カウンセリング的な応答や援助的コミュニケーションの原則を述べることができる。</li> <li>3. 上記技術を活用し、健康相談やコンサルテーションを行う方法について理解できる。</li> <li>4. 3. のスキルを実践できる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習	担当者名	授業形態	
第1回	授業の概要説明、人間関係とは、カウンセリングとは						渡久山	講 義	
第2回	ロジャースの来談者中心療法①					P. 29-40	〃	〃	
第3回	ロジャースの来談者中心療法②						〃	〃	
第4回	ロジャースの来談者中心療法③						〃	〃	
第5回	カウンセリング事例の検討Ⅰ					資料	〃	演 習	
第6回	カウンセリング事例の検討Ⅱ（録音事例・ビデオ事例）					資料	〃	〃	
第7回	カウンセリング演習①基本的技法の練習						〃	〃	
第8回	カウンセリング演習②ロールプレイⅠ（一般的な client）						〃	〃	
第9回	カウンセリング演習③ロールプレイⅡ（看護現場の client）						〃	〃	
第10回	カウンセリング演習のまとめ・アンケート						〃	〃	
第11回	精神障害者への心理療法①					P. 121-129	〃	講 義	
第12回	精神障害者への心理療法②・電話相談（自殺予防）					資料	〃	〃	
第13回	看護現場でのカウンセリング技法の活用1					資料	大川	〃	
第14回	看護現場でのカウンセリング技法の活用2					資料	〃	〃	
第15回	HIV エイズカウンセリング、人間関係の倫理、授業の振り返り、まとめ					資料	渡久山	〃	
テキスト	「わかりやすい臨床心理学入門」：小山望編著 福村出版 ¥2,300								
参考文献	「カウンセリングの理論」：国分康孝著 精神書房 ¥2,300 「エンカウンター」：国分康孝著 精神書房 ¥2,000 「臨床心理学」：名嘉幸一編著 中外医学社 ¥2,400								
他科目との 関連	「心理学」「臨床心理」での学習につなげる								
成績評価 の方法	ミニ・レポート12%、期末レポート20%、期末試験68%								

学習相談・助言体制	授業終了後はしばらく教室に居り、学生が個人的に質問できる機会をつくる。演習に抵抗を示す学生は授業外で個別指導の機会を設ける。
授業改善の特記事項	心理的援助の様々な分野に関する文献を検索し、報告するミニ・レポートを学期中に3回程度、課すことで興味・関心を喚起し、図書館になじませる。
備考	演習に積極的に参加し、実践的に学ぶ態度を持つこと。

科目コード	40012	授業科目	看護大学ゼミナールⅡ (OPCN Seminar Ⅱ)			担当 教員	○渡久山朝裕 田場由紀 川崎道子 金城芳秀		
開講年次	2年次後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演習		
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	現代社会への身体的・精神的・社会的不適応から生じている健康問題や関連領域の課題に対して、学生が主体的に取り組む過程を通して、看護大学ゼミナールⅠで学んだ情報収集・分析・代案の提示と結果の予測、最善策の選択、実行など自らの問題解決能力を磨き、能動的学習能力とチームワーク力を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会に生じている健康問題に積極的に関心を向けることができる。</li> <li>2. 健康問題の学習テーマについてチームで絞り込むことができる。</li> <li>3. 絞り込む過程では看護大学ゼミナールⅠで学んだ問題解決方法や問題解決能力を発揮することができる。</li> <li>4. 図書・文献検索から多様な情報収集を行い、学術的情報にアクセスすることができる。</li> <li>5. 地域に出かけて行き、活動等を通して実践的に学ぶことができる。</li> <li>6. チームのメンバーとディスカッションができる。</li> <li>7. チームの一員としてチームワークに貢献できる。</li> </ol>								
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1・2回	授業目標の理解、各活動プログラムの説明、 チーム配置、活動課題の検討、誓約書の提出				事前、事後学習 や学習課題に ついては、各チ ームのテーマ に応じて各担 当者が随時行 う。	川崎 金城 田場 渡久山	演習		
第3・4回	学習活動①								
第5・6回	中間報告会								
第7・8回	学習活動②								
第9・10回	学習活動③								
第11・12回	学習活動④								
第13・14回	学習活動⑤								
第15・16回	活動発表会・評価								
第17回	振り返り・アンケート								
テキスト	フレッシュマンセミナーテキスト、大学新入生のための学び方ワークブック、初年次教育テキスト編集委員会編、東京電機大学出版局、2009								
参考文献	適宜、紹介する。								
他科目との 関連	「看護大学ゼミナールⅠ」での学習を土台にし、さらに「看護大学ゼミナールⅢ」での学習につなげていく。								
成績評価 の方法	地域活動への参加40%、プレゼンテーション10%、期末個人レポート30%、 担当教員の評価20%								
学習相談・ 助言体制	学生たちの主体性を尊重しつつ、不十分な点については助言しながら課題を達成させる。								
授業改善の 特記事項	この科目について、授業の最終日にアンケート調査を行い、学生たちから指摘された改善点や修正点を検討し、次年度に活かしていく。								
備考	学習活動は、5日間、合計15時間程度を目安にし、活動先と調整のうえ、計画的に行うこと。								

科目 コード	21154	授業 科目	疾病論 I (Nosography I)			担当 教員	○佐伯宣久 寺田陽子 (非常勤)		
開講年次	2年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必 修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	成人期および老年期に特有な疾病の病態生理、症状、診断、治療について学習する。								
到達目標	1. 成人期・老年期で見られる主要な疾患の病態、診断法、治療について理解する。 2. 成人期・老年期で見られる主要な症状の発生要因を理解し、これらの症状の原因となりうる疾患を挙げることができる。 3. 女性生殖器の機能及び女性特有の病態、症状、治療等について理解する。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
授業番号	講義の日程は別に配布する時間割を参照してください。					講義後の自己 学習をしっかりと 行っていただき たい。	佐 伯	講 義	
①	<内科・外科疾患> 呼吸器疾患								
②	循環器疾患								
③	高血圧、感染症								
④	消化器系の疾患I (消化管)								
⑤	消化器系の疾患II (肝臓・膵臓・胆のう)								
⑥	血液疾患								
⑦	代謝・内分泌疾患								
⑧	腎泌尿器疾患								
⑨	脳の疾患								
⑩	皮膚・眼・耳鼻咽喉・口腔の疾患								
⑪	運動器・神経系の疾患								
⑫	加齢変化と疾患								
⑬	救急ICU疾患、その他								
⑭	<婦人科疾患> 炎症性疾患、腫瘍性疾患					佐 伯 寺 田			
⑮	不妊症、生殖医療								
テキスト	特に指定しないが、講義内容は下記の文献を参考に構成されている。 ・医療情報科学研究所 編集：病気がみえる Vol. 1-9, メディックメディア ・松田暉 他 総編集：看護学テキストNICE 疾病と治療 I-IV, 南江堂 2010								
参考文献	矢崎義雄 総編集：内科学 第10版, 朝倉書店 2013 畠山勝義 監修：標準外科学 第14版, 医学書院 2016 松野丈夫・中村利孝：標準整形外科学 第12版, 医学書院 2015 富田靖 監修：標準皮膚学 第10版, 医学書院 2013 木下茂 監修：標準眼科学 第13版, 医学書院 2016								
他科目との 関連	人体の構造と機能、人体の構造と機能演習 I、栄養と代謝、臨床薬理、微生物と免疫、病態生理、疾病論 II								
成績評価 の方法	期末試験により評価する。								

学習相談 助言体制	授業後や放課後などに質問や相談に対応し、適宜助言を行う。
授業改善の 特記事項	各種疾患に関する講義は「人体の構造と機能」「微生物と免疫」「疾病論Ⅰ・Ⅱ」の4科目で網羅しており、過不足無く効率的に学習できるよう、毎年度において授業内容を見直している。
備 考	講義では成人期で見られる主要な疾患について重要事項を解説する。医療現場で使える知識とするために、講義を参考に自己学習を行うことにより理解を深めていただきたい。

科目コード	21155	授業科目	疾病論Ⅱ (NosographyⅡ)			担当 教員	○佐伯宣久 上里忠和 (非常勤) 松岡剛司 (非常勤) 稲福徹也 (非常勤) 青山貴博 (非常勤) 山本和義 (非常勤)							
開講年次	2年次 後期	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業 形態	講 義							
選択必修	必修	時間数	30時間	分類										
履修条件	前提科目	なし												
	その他	なし												
授業概要	周産期及び小児に特有の病態生理、症状、診断、治療等について学習する。また、主たる精神疾患についても学習する。													
到達目標	1. 主な周産期疾患の病態生理・診断・治療を理解する。 2. 主な小児疾患の病態生理・診断・治療を理解する。 3. 主な精神疾患や認知症の病態・診断・治療を理解する。													
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態							
授業番号	講義日程は別に配布する時間割を参照してください。				講義後の自己学習をしっかりと行っていただきたい。	上 里 佐 伯	講 義							
①	＜周産期疾患＞ 妊娠の異常と合併症妊娠（1）													
②	妊娠の異常と合併症妊娠（2）													
③	＜小児疾患＞ 総論、新生児疾患													
④	代謝疾患、内分泌疾患													
⑤	膠原病、炎症性腸疾患、放射線医学													
⑥	呼吸器疾患、消化器疾患、再生医療													
⑦	循環器疾患、血液疾患、腫瘍性疾患													
⑧	腎泌尿器疾患、神経疾患													
⑨	小児の精神疾患とこころのケア													
⑩～⑫	＜精神疾患＞ 精神疾患の病態、症状、診断、治療等 統合失調症、気分障害、アルコール依存症 人格障害、神経症性障害、													
⑬	性同一性障害													
⑭～⑮	認知症													
テキスト	＜周産期疾患＞ 医療情報科学研究所 編集：病気がみえるVol.10 産科、 メディックメディア ＜小児疾患＞ 佐地勉・原寿郎・竹内義博 編著：ナースの小児科学、中外医学社 2015 ＜精神疾患＞ 特に指定しない。参考文献にある書籍あるいはその他から書籍を選んで 自己学習してください。 （看護学テキストNICE 疾病と治療 III, 南江堂にも精神疾患の章がある）													



参考文献	<p>&lt;周産期疾患&gt;          東京慈恵医科大学産婦人科学講座 翻訳：ウィリアムス産科学 原著24版，南山堂 2015          荒木勤：最新産科学 正常編，文光堂 2008          荒木勤：最新産科学 異常編，文光堂 2012</p> <p>&lt;小児疾患&gt;          医療情報科学研究所 編集：病気がみえる Vol. 1-9，メディックメディア          内山聖 監修：標準小児科学，医学書院 2013          内山聖・安次嶺馨 編集：現場で役立つ小児救急アトラス，西村書店 2009          衛藤義勝 監修：ネルソン小児科学 原著第19版，エルゼビア・ジャパン 2015</p> <p>&lt;精神疾患&gt;          渡辺雅幸：専門医がやさしく語る初めての精神医学，中山書店 2015          (精神疾患についてわかりやすく説明されている)          武田雅俊 監修：精神医学マイテキスト 改訂2版，金芳堂 2014          上島国利・立山万里 編集：精神医学テキスト改訂第3版，南江堂 2012          川野 雅資 編集：精神看護学II 精神臨床看護学 第6版，ヌーヴェルヒロカワ 2015          (精神保健看護IIで使用するので講義と関連する部分を読んでおくことが望ましい)          真田弘美・正木治恵 編集：老年看護学技術 改訂第2版，南江堂 2016          (老年保健看護IIで使用するので講義と関連する部分を読んでおくことが望ましい)</p>
他科目との関連	精神保健看護Ⅰ・Ⅱ、周産期保健看護Ⅰ・Ⅱ、小児保健看護Ⅰ・Ⅱ、臨床心理病態生理、微生物と免疫、ヘルスアセスメントで学んだ知識と統合し、精神保健看護実習Ⅱ、周産期保健看護実習Ⅱおよび小児保健看護実習Ⅱで活用する。
成績評価の方法	自己学習によっても解消しない疑問などについては適宜対応する。
学習相談・助言体制	授業後や放課後などに質問や相談に対応し、適宜助言を行う。
授業改善の特記事項	各種疾患に関する講義は「人体の構造と機能」「微生物と免疫」「疾病論Ⅰ・Ⅱ」の4科目で網羅しており、過不足無く効率的に学習できるよう、毎年度において授業内容を見直している。
備考	講義では周産期疾患・小児疾患・精神疾患・認知症について重要事項を解説する。医療現場で使える知識とするために、講義を参考に自己学習を行うことにより理解を深めていただきたい。

科目 コード	22190	授業 科目	生涯人間発達論 (Life-span Development)			担当 教員	○上原和代 賀数いづみ 山本敬子 大湾明美		
							実務経験：あり		
開講年次	1年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保・助・看)	授業 形態	講 義		
選択必修	必 修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	生涯発達理論の基礎を理解した上で、ライフサイクル各期の身体的・心理社会的発達の特徴を科学的に理解し、それらの知識が胎児期から老年期までの看護にどのように応用できるかを学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間を生涯発達の視点から見る意義を理解できる。</li> <li>2. 主たる発達理論を挙げ、説明できる。</li> <li>3. 生涯発達の研究方法と説明できる。</li> <li>4. 個体と環境との関連を理解できる。</li> <li>5. 妊娠の成立、胎児の成長・発達とその評価方法について説明できる。</li> <li>6. 周産期および新生児の評価方法を説明できる。</li> <li>7. 乳児・幼児前期の成長・発達の特徴とその評価方法を説明できる。</li> <li>8. 幼児後期の成長・発達の特徴とその評価方法を説明できる。</li> <li>9. 学童期の成長・発達の特徴とその評価方法を説明できる。</li> <li>10. 青年期の成長・発達の特徴とその評価方法を説明できる。</li> <li>11. 成人期の発達とその評価方法を説明できる。</li> <li>12. 老年期の発達とその評価方法を説明できる。</li> <li>13. 死に関する発達と死の受容について討議できる。</li> </ol>								
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	オリエンテーション・人間発達とは、発達理論				1. P. 2-20	上 原	講 義		
第2回	生涯発達の研究方法・個体と環境				1. P. 21-35	”			
第3・4回	出生前発達と出生				1. P. 38-59	賀 数			
第5・6回	乳児・幼児前期				1. P. 60-94	上 原			
第7回	幼児後期				1. P. 95-135	”			
第8回	学童期				1. P. 136-173	”			
第9回	成人期				2. P. 12-35	山 本			
第10回	青年期				別途指示する	”			
第11回	壮年期 (中年期/更年期)				”	”			
第12回	向老期				”	”			
第13回	老年期				3. P201-207 3. P231-235	大 湾			
第14・15回	老年期				別途指示する	”			

テキスト	1. 生涯人間発達学改訂第2版増補版:上田礼子, 三輪書店, 2012 2. 成人看護学概論改訂第2版, 南江堂 3. 老年看護学概論, 南江堂, 2011
参考文献	適宜事前に提示する。
他科目との関連	心理学、各保健看護 I 本科目は保健師課程、助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	課題とミニテスト 20%、討議への参加度 5%、期末試験 75%
学生相談・助言体制	各担当教員の初回授業にてオフィスアワーを提示する。
授業改善の特記事項	授業評価に記述された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく。
備考	本科目は、原則として1コマあたり最低4時間の予習・復習が必要。 本科目は、毎回授業始めに10分間のミニテストを行う。 本科目は、原則として成績不良者への期末試験の再試験は行わない。